

原爆を考える

北海道被爆者協会 副会長 松本郁子

1. 日時 2017年7月28日(金) 10:00~12:00

2. 場所 広島・長崎原爆資料館(札幌市白石区平和通17丁目)

3. 実技研修概要

(1) 広島・長崎原爆資料館

広島・長崎原爆資料館は、JR平和駅の隣に位置しています。JR平和駅は快速エアポートが止まらないので、1時間に1~2本しかありません。駐車場もないので、交通アクセスは不便かもしれません。



(2) 資料館見学

初めに20分ほど、資料館内を個々に見学しました。資料館は2Fにあります。音楽室程度の小規模な展示室ではありますが、資料は充実していて原爆の悲惨さが十分に伝わる資料でした。



← 焼けただけた人間の写真



原爆の熱風でくっついて
しまった湯飲み茶碗、硬貨、
屋根瓦、 など

(3) DVD 視聴 (約 30 分)

①原爆投下 10 秒後の衝撃 (溪口先生・千歳第二小 提供)

資料をもとに原爆投下 10 秒後の様子を CG を使って再現した DVD です。原爆は放射線による熱線→爆風 (半径 2 km は全壊) →この間わずか 10 秒ほどであったことが証明されています。

②人間をかえせ

爆心地 1.4 km で被爆した方の証言やアメリカによる原爆被害のデータを映像化した DVD です。



(4) 松本郁子先生による被爆体験の講話 (約 1 時間)

【概要】

松本さんは現在 84 歳になりますが、およそ 60 年間被爆者であることを語ってきませんでした。あの体験を何と言っているかわからない、そして何よりも子どもたちに知られるのが 1 番怖かったそうです。

私の家は爆心地から 2 km の所にあった。8 月 6 日の朝、突然マグネシウムをたくさん集めたような閃光が辺りを包んだ。私は普段の訓練からとっさに目と耳をふさいでしゃがむ姿勢をとっていた。今から思うとあれが生死を分けたのだとも思う。気がつくとも辺りは真っ暗で息もできなかった。仏壇やタンスが倒れていたが、それがちょうど屋根の崩れの支えになって下敷きにならなかったのだと思う。もし外にいたら命はなかつたらう。黒焦げになった人、着るものが皮膚にこびりついた人、皮膚がはがれ爪の先にひっかかっている人などが幽霊のようにぞろぞろと爆心地の方からやってくるのを見た。しかしそんな光景をみても何の感情もわかなかつた。人間はあまりのショックにあうと驚くのではなくそうなるのだと思う。

60 年間忘れようとしていたせいか、その後のことはよく覚えていない。気がつくとも従妹

と大八車の端をつかんで山を目指して歩いていた。やがてある農家で休ませてもらった。そこには顔の見分けもつかない人がどンドンと運ばれてきた。町の方を見ると広島の方が赤々と焼けていたが、涙もでなかった。ただ茫然としていた。次の日、火傷をした女学生たちにウジがわいていたので、わりばしでとってやったのだが、次々と亡くなっていった。あまりに多いので1人ずつではなくまとめて茶毘にふしてあげた。私は何を食べたわけでもないのにその日から下痢がとまらなくなっていた。

8月15日 どこをどうして来たのか記憶がないが、熊野にいた。そこでラジオで終戦を知った。私はその時「どうして神風が吹かないのだろう。」と思った。今考えると、こんな状況で戦争に勝てるはずもないのは子どもでもわかることなのに、その時の私は「日本には神風が吹いて必ず最後は勝つのだ。」と教えられていたので、日本がいつか必ず勝つと信じていた。

9月に広島市内でおじの家にお世話になりそこで、妹と再会し、母の死を知り初めて涙を流した。その後、妹と2人で家の跡地を掘った。水を求めていった人はイカダのように死体となって連なって流れていった。何日もトタンの下に埋もれていた人は骸骨となっていた。勤労者の人たちが死んでいく様子を見てみると、まず髪がぬける→皮下出血の斑点が出る→血を吐く。これが放射能で死んでいく人たちの特徴だ。

10月に父が復員してきた。その後、父子3人で福岡に移るが、私は相変わらず病気がちで貧血になるため、希望の学校には進学することができなかった。妹は平成元年に白血病で亡くなったが、原爆との因果関係は認定されなかった。私は今でもそのことに疑問を持っている。年月が立つと色々な病気がでてくるものだ。私は副甲状腺腫瘍であるが、これも原爆とは関係ないと言われている。

その後、色々あり北海道に住み、息子と娘に恵まれたが、子どもたちのことを考えると、自分が被爆体験者であることだけは言えなかった。子どもたちが自分たちの将来を悲観することだけは避けたかった。2004年息子が旅行に連れて行ってくれることになった。その地が広島であった。2人で行った広島で息子が「お母さんは一度も話してくれなかったね。」という言葉聞いた時、ああ息子は自分のこと知っているのだなとわかった。それを機に今まで避けていた手記に原稿を寄せ、今の運動に関わってきた。

平和を守らねばと思うが、どすればいいのかわからない。反核に向けて日本が1番反対の旗を振らなければならないのに残念でならない。



* いわゆる「被爆者」とされる方は道内に321人いらっしゃるそうです。